

# 深海調査研究推進の基本的考え方

平成 12 年 7 月

改訂：平成 14 年 7 月

平成 15 年 9 月

海洋科学技術センター

## 1. 基本方針

海洋科学技術センター（以後「センター」という）は、海洋の総合的試験研究の一環として、深海域における地球科学的諸現象（テクトニクス、地震活動、地殻変動、生態系変動、物質循環）の総合的解明・予測及び技術開発を目指した調査研究（深海調査研究）を以下の方針で推進する。

- 1) センターは、上記深海調査研究を目的として深海調査研究中期計画（平成 12 年 7 月制定）に基づき、潜水調査船「しんかい 6500」、無人探査機「かいこう」装備のサイドスキャンソナーとサブボトムプロファイラー（\*注）、支援母船「なつしま」に搭載する無人探査機「ハイパードルフィン」または深海調査曳航システム 4000m 級「ディープ・トウ」、深海調査研究船「かいてい」並びに「シングルチャンネルサイスマックプロファイラー」（以後、潜水調査船等という。）を運用する。

\*注：無人探査機「かいこう」は、本年 5 月 29 日の潜航中、ビークルが行方不明になった。そこで、平成 16 年度は「かいこう」装備のサイドスキャンソナーとサブボトムプロファイラーのみを公募対象とする。

- 2) 潜水調査船等のシステム運用・船舶運航に当たっては、安全を最優先とする。
- 3) 深海調査研究を効果的に推進するために、研究課題及び乗船研究者を公募する。
- 4) 緊急事態や政策的重要な課題に対応するため、センター理事会が必要と判断した事項については、優先的にこれを実施することとする。

## 2 . 深海調査研究推進の体制

- ・ 科学領域の拡大に伴う社会の要請に幅広く応え得る、公正かつ公明な深海調査研究推進体制を構築することが必要である。
- ・ 潜水調査船・無人探査機・深海調査研究船等多様化したシステムを、有機的かつ安全で効率的に運用するための調査研究計画策定体制が必要である。
- ・ 21 世紀の新たな深海調査研究環境に応え得る調査研究推進体制とする。

## 3 . 研究課題の公募

### 1) 研究課題

深海調査研究中期計画に基づいて、研究課題を公募する。

研究課題は、一つの科学目標を達成するための研究プロジェクトとして、企画する総合的・複合的研究課題及び個別研究課題とする。

### 2) 公募における情報（公募に際しては、以下の条件を明記する。）

調査研究において利用可能な潜水調査船等の内容

調査航海等における制約条件（関連する法令・センターの安全規則等）

研究課題審査の手順と申請者への対応の公開

公募研究課題の審査とランク付け基準及び採択基準の公開

首席研究員 / 次席研究員の役割

受理後から調査航海終了までの業務手順

### 3) 公募研究課題の扱い

全ての研究課題は採択まで非公開とし、採択後初めて公開される。

（委員会委員の氏名は公開を前提とする。）

### 4) 公募研究課題の審査及び採択

深海調査研究計画委員会において審査基準に従って公募研究課題の科学的優先順位の決定を行い、実施計画調整部会において研究課題の科学的優先順位に基づき採択し、運航計画案を策定する。

### 5) 総合的・複合的研究の継続

総合的・複合的研究は、海洋科学技術センターの潜水調査船等の運航計画に基づき、調査研究を優先的に継続することができる。ただし、毎年深海調査研究計画委員会の実績評価を受ける事を必要とする。

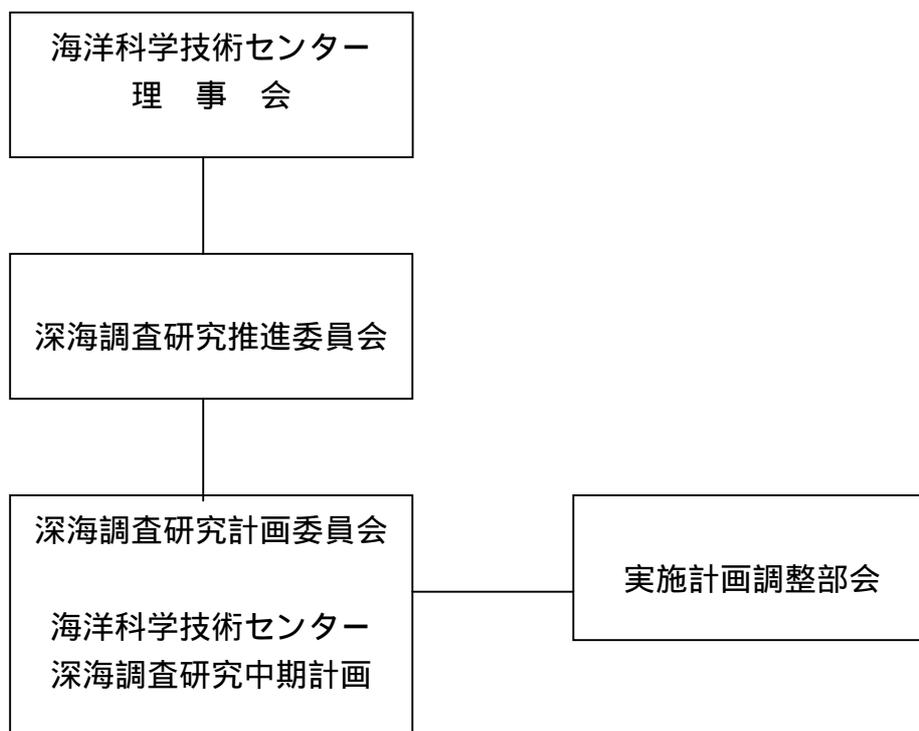
### 6) 研究計画及び研究成果の評価体制

深海調査研究計画委員会において、研究計画の評価及び実施後の成果の評価を一元的に行う。

#### 4 . 深海調査研究各委員会の主な機能

- 1) 深海調査研究推進委員会  
センター理事会及び深海調査研究計画委員会に対し、深海調査研究の総合的見地からの助言・勧告を行う。
- 2) 深海調査研究計画委員会  
深海調査研究中期計画の策定  
深海調査研究中期計画に基づき公募された研究課題の科学的優先順位の決定（原則として、研究課題の科学的評価は当委員会で行うが、特に必要と認められたものについては外部の評価を求める。）  
技術開発に係る研究課題の審査  
研究航海の実施結果に対する評価  
調査研究の継続の可否の判定等  
首席 / 次席研究員の指名
- 3) 実施計画調整部会  
研究課題の科学的優先順位に基づき、安全性、技術的、運航上の問題等を勘案した運航計画の策定を行う。

#### 5 . 深海調査研究計画推進組織図



## 6．深海調査研究中期計画の策定体制

海洋科学技術センターの深海調査研究の基本となる中期計画は、有識者によって構成された「深海調査研究計画委員会」において策定される。また「深海調査研究推進委員会」は、深海調査研究の総合的見地から必要に応じてセンター理事会及び「深海調査研究計画委員会」に助言・勧告を行う。

「深海調査研究計画委員会」は検討にあたり、「総合科学技術会議」、「海洋開発分科会」等の答申を反映させるとともに、センターが開催するシンポジウムやワークショップを通じて、広く内外の科学的ニーズや動向を考慮することとする。

## 7．深海調査研究推進委員会

潜水調査船・無人探査機等の運航及びこれによる深海の調査研究に関し、学識経験のある者のうちから委員長以下 11 名を理事長が任命する。また、委員長が必要と認めた場合には、オブザーバーを参加させることができる。委員名はセンターweb.等を通して公表される。任期：2 年（必要に応じ再任を認める）

## 8．深海調査研究計画委員会

### 1) 委員会の規模と構成

各専門分野（固体地球系・生態系・物質循環・長期観測・技術開発）を代表する委員 11 名、それに委員長 1 名。委員長については深海調査研究推進委員会がこれを推薦し、理事長がこれを任命する。専門分野別委員の人選は委員長がこれを指名し、理事長がこれを任命する。また、委員長が必要と認めた場合にはオブザーバーを参加させることができる。委員名はセンターweb.等を通して公表される。任期：3 年（必要に応じ再任を認める）

### 2) 委員会の役割

#### ・深海調査研究中期計画の策定

深海調査研究中期計画は、センターの深海調査研究の基本となるものであり、5 年から 10 年を見越した科学研究計画を定める。

#### ・研究課題の審査

##### a．総合的・複合的研究及び個別研究課題

科学計画の現実度、完成度、科学的な魅力などについて検討し、採択・不採択の判断を下す。また、採択されたものについては委員によって優先順位を決める。必要に応じ適当な助言を与え、申請者へ差し返すことができる。

##### b．技術開発に係る研究課題

その課題の科学的展望について審査する。

#### 研究航海の実施結果に対する報告・公表の確認

- ・採択された研究課題を実施した乗船研究者は、航海終了後すみやかに研究航海の概要を計画委員会に報告し、「しんかいシンポジウム」での発表、「JAMSTEC 深海研究」への投稿などで研究成果を公開する。
- ・計画委員会は、乗船研究者の当該報告・公表を確認する。

#### 採択課題の通知

- ・実施計画調整部会での運航計画策定後、採択課題には早めに申請者に採択内示を出す。
- ・不採択の場合には、その理由（コメント）を付記し申請者に通知する。

総合的・複合的研究及び個別研究航海の首席／次席研究員を指名する。

## 9．実施計画調整部会

### 1) 調整部会の規模と構成

本部会の部会長は深海調査研究推進委員会が推薦する。他の部員は部会長が指名し、基本的には合計 8 名で構成される。但し、深海調査研究計画委員会委員の中 3 名が兼任する。部会長及び部員は理事長が任命する。部会長が必要と認めた場合には、オブザーバーを参加させることができる。部員名はセンターweb.等を通して公表される。任期：3 年（必要に応じ再任を認める）

### 2) 実施計画調整部会の役割

深海調査研究計画委員会の検討結果（研究課題審査、実績評価、中期計画等）を受け、優先順位の上位のものから適宜、乗船研究者と調査研究の運航実施時期等を当てはめ年次計画を策定する。但し、運航実施上適正さを欠くと判断された研究課題については、再度これを深海調査研究計画委員会へ差し戻すことができる。

### 3) 策定された運航計画について実施の可能性を下記項目について確認する。

安全性

時期的適応性（気象・海象・予算等）

諸手続き等の確認（特に外国の EEZ 水域、領海内水域調査等）

### 4) 計画実施の調整

上記検討を通過した各総合的・複合的課題について、首席研究員に対して参加研究者を含む調査研究実施計画（案）の提出を要求し、運航実施上の必要に応じて調整を行う。

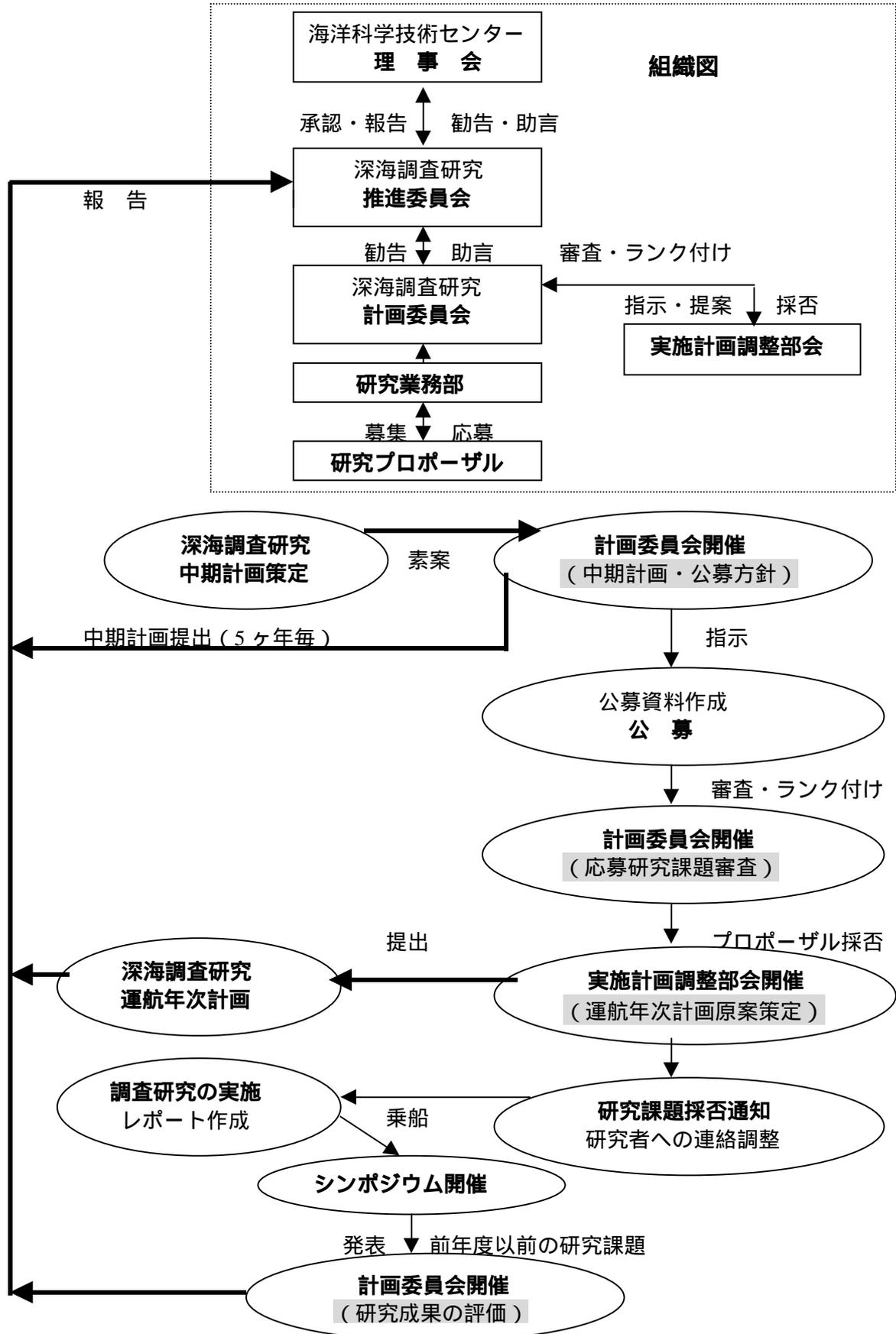
実施計画（案）準備の進捗状況を確認して実行困難と判断されたものは、深海調査研究計画委員会と協議の上、その採否を決定する。

5) 技術的問題及び調査機器に関する評価検討

提案された研究課題についてその技術的妥当性を審査し、実現性の有無を判断する。研究課題にセンターの施設装備についての要望があった場合には、その妥当性と実現の可能性を検討し、必要に応じてセンター研究業務部へ勧告を行う。

なお、本項目については、必要に応じてセンター内外の有識者の助言を得ることができる。

# 深海調査研究の推進体制と業務



## 平成15年度 深海調査研究委員会名簿

### 深海調査研究推進委員会

	氏名	職名
委員長	小林 和男	東京大学 名誉教授
委員	石田 瑞穂	独立行政法人防災科学技術研究所 研究主監
委員	宇井 忠英	北海道大学大学院理学研究科 地球惑星科学専攻 地球惑星物質圏科学講座 教授
委員	小池 勲夫	東京大学海洋研究所 教授・所長
委員	斎藤 靖二	独立行政法人国立科学博物館 地学研究部 部長
委員	谷口 旭	東北大学大学院農学研究科 応用生命科学専攻 環境生命科学講座水圏生態学分野 教授
委員	辻井 薫	北海道大学電子科学研究所 附属ナノテクノロジー研究センター 教授
委員	西村 昭	独立行政法人産業技術総合研究所 海洋資源環境研究部門 副部門長
委員	野津 憲治	東京大学大学院理学系研究科 地殻化学実験施設 教授
委員	山下 輝夫	東京大学地震研究所 教授・所長
委員	木下 肇	海洋科学技術センター 理事

### 深海調査研究計画委員会

	氏名	職名
委員長	藤本 博巳	東北大学大学院理学研究科 教授
委員	歌田 久司	東京大学地震研究所海半球観測研究センター センター長・教授
委員	浦 環	東京大学生産技術研究所海中工学研究センター センター長・教授
委員	浦辺 徹郎	東京大学大学院理学系研究科 教授
委員	加藤 茂	海上保安庁海洋情報部海洋汚染調査室 室長
委員	小島 茂明	東京大学海洋研究所海洋生態系動態部門 助教授
委員	左子 芳彦	京都大学大学院農学研究科 応用生物学専攻海洋分子微生物学分野 助教授
委員	白山 義久	京都大学フィールド科学教育研究センター 海域ステーション瀬戸臨海実験所 所長・教授
委員	益田 晴恵	大阪市立大学大学院理学研究科 助教授
委員	湯浅 真人	(独)産業技術総合研究所 地質調査総合センター 地質調査情報部 地質調査推進室 室長
委員	三ヶ田 均	海洋科学技術センター深海研究部 研究主幹
委員	山本 啓之	海洋科学技術センター海洋生態・環境研究部 研究主幹

### 深海調査研究実施計画調整部会

	氏名	職名
部会長	蒲生 俊敬	北海道大学大学院理学研究科 教授
部員	藤本 博巳	東北大学大学院理学研究科 教授
部員	加藤 茂	海上保安庁海洋情報部海洋汚染調査室 室長
部員	小島 茂明	東京大学海洋研究所海洋生態系動態部門 助教授
部員	浅川 賢一	海洋科学技術センター海洋技術研究部 主任研究員
部員	木下 正高	海洋科学技術センター深海研究部 副主幹
部員	藤倉 克則	海洋科学技術センター海洋生態・環境研究部 研究副主幹
部員	門馬 大和	海洋科学技術センター研究業務部 部長